

「北の国からのお礼と願い」

日本学生卓球連盟参事（北海道学生卓球連盟会長） 本吉 敏

新年を皆様におかれましては、御健勝でお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年も健康で、それぞれの目標に向かって精進される事を心よりご祈念申し上げます。

昨年、本学連主管にて苫小牧市にて開催された第18回全日本学生選抜卓球選手権大会におきまして、日学連並びに関係各位の絶大なるご支援ご協力のもと無事終了させていただきました事をご報告するとともに、あたためて感謝とお礼を申し上げます。本大会の開催は本学連として初の経験であり、幾多の不行き届きもあったと存じますが、役員、選手の皆様のご理解ご協力である程度充実した大会となったとの評価をいただき、主管学連としての責任は全うできたのではと自負させていただいております。その中で私自身、直前に開催されたねりんピックに参加し帰道後体調不良に陥ってしい大会に参加する事が出来ず、申し訳ない気持ちと残念な気持ちでございました。自己責任の中で職務を全うできなかった事をこの場を借りてお詫び申し上げます。後日、体調も回復し岡山県で開催された全日本卓球選手権マスターズの部に参加の際、競技委員長として来られていた板垣理事長とお会いする事ができ、その事をお話しさせて頂いたところ、寛大なお気持ちをもって笑顔でご対応いただく事が出来、心に安らぎを覚えらせて頂き本当に感謝しております。ありがとうございました。

さて、私が本学連の会長に就任してから、コロナ渦の中でありながらあっという間に3年が経ちました。就任以来、学生に伝えてきた事は、日々全国を意識して練習をして欲しい事と、道内でも社会人に引けを取らずに学生が全日本卓球選手権大会の道代表として最高峰の舞台で活躍してほしい事、とにかく学生が北海道卓球界の中心となり牽引していく原動力になって欲しいという事でした。様々な制約を受けながらも、この3年間の中で学生の意識が少しずつ変化を見せ結果として表れてきたことが本学連の希望の灯火をともし始めたと感じております。これからも「選手ファースト」の原点を忘れず、学生たちの意識を高揚しつつ選手共々努力を惜しまずに本学連の躍進がなされる事を目標として頑張りたいと考えております。今後とも、本学連に対してのご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。